

けいの まさよ  
慶野 勝代さん  
(栃本町)



○プロフィール  
朗読「ひびき」会長  
アマリスの会 会員  
栃木県男女共同参画地域推進員  
保護司

# キラリ★ 話題の「ひと」

## わたしのKeynote



連創設50周年の1995年9月「女性の人権や社会的地位の向上」をテーマに「第4回世界女性会議」が北京で開催され190カ国が参加しました。この会議はアジア初、最大規模の会議で、女性の貧困や教育など12分野の行動綱領を採択し、世界から集まった数万人の女性が共有しました。ジェンダー格差の解消と地位向上を願った「北京会議」に日本から約5千人が参加しましたが、その参加者の1人が、慶野さんでした。世界や日本の女性たちの抱える課題を再認識したと同時に、赤ちゃん連れの参加者や民族衣装を着た女性たちの力強いスピーチに、こんなにも意識の高い女性たちが大勢いることに驚き、刺激を受けたといいます。

その前年の1994年には「栃木県女性の海外研修」に参加。イギリス、フランスでの研修やホームステイを経験し、地域での身近な課題を見つめ、女性の生きづらさや他の人と違う理不尽な差別に對し、何かできることを始めたいと思ったといいます。

託児ボランティア・アマリスの会を設立し、育児中でも学ぶ機会を逃さないよう支援を続け24年。また、人権擁護委員や行政相談員を経て、現在は佐野保護司会で活動しています。2006年、朗読「ひびき」を結成し、DVをはじめとした社会問題を朗読で上演。団体は東日本大震災の時には、石巻に何度も佐野市の野菜や果物、日用品を届けました。また佐野市の詩人小曾根俊子の詩の朗読を通じ、ハンディを持って生きる心の叫びを多くの人に伝えていきます。そんな活動が評価され2020年に栃木県「男女生き生き地域活動」で優秀賞を受賞しました。

普段は花好きグラマムとしてインスタグラムで庭の花を紹介しており、慶野さんのほんわかとした暖かなお人柄が伝わってきます。

(市民記者 永倉文子)



▲栃木市の団体との交流会で朗読（朗読「ひびき」の活動）

## 市長からのメッセージ

### メッセージ

梅雨が瞬く間に明け、7月1日(金)には佐野市で県内観測史上最高となる39.9度を記録するなど猛暑が続いたと思えば、戻り梅雨になるなど体調を崩しやすい状況が続いており、熱中症予防とともに体調管理に十分お気を付けてください。

先月10日に参議院議員通常選挙が執り行われ、投票率は栃木県選出議員選挙が46.65%、比例代表選出議員選挙が46.69%と前回の3年前の時よりも3%近く投票率が上がりました。また、期日前投票だけを見ても、前回よりも約2700人も期日前投票所を設置しておりましたので、そういったところも投票率向上に繋がったものと思います。選挙は皆さんの意見を反映させる代表者を決めるものであり、大変重要なものですので、今後も更なる投票率向上を目指していきたいと思っております。

さて、以前この市長メッセージでもお伝えしましたが、本市の桃の生産量は県内1位です。今年の桃は6月中旬以降の暑さが好影響し、良い出来だとお伺いしております。そのような中で、収穫前の桃が大量に盗まれるという大変憤りを感じる事件が発生しました。農家の方々が丹精込めて作られた桃を収穫直前に盗むという非常に悪質なものであり、このメッセージを執筆している現在では犯人は捕まっております。一刻も早い犯人確保により、農家の皆さんが安心できることを願います。

新型コロナウイルス感染症については、第4回目のワクチン接種も開始しましたが、急激に感染者数を増やしてきております。夏休みやお盆の帰省など、感染リスクが高まる状況になりやすい時期でもありますので、気をひきしめて感染対策を一緒に行いましょう。

金子裕

今回の表紙 「風鈴参道にイチゴ風鈴登場」令和4年7月18日撮影

唐澤山神社で開催されている風鈴参道にて、イチゴの形をした風鈴が登場しました。色鮮やかな見た目と涼しげな音色で、参拝者の目と耳を楽かせていました。





## 八木節の伝統を守り続けるために

**チ** ャカポコチャカポコ♪ というリズムカルな伴奏が郷愁を誘う、伝統芸能の八木節。起源については、群馬や栃木など諸説あるようですが、始まりは江戸末期とされています。

コロナ禍で活動の場を失っていた八木節保存会の野州小桜が、活動を再開しました。同会の地元である赤見町の円城院では、毎年終戦記念日に開催される盆踊り大会で八木節が演奏され、祭を盛り上げていたそうです。「八木節の楽しさを多くの人に伝えていきたいです」と、若手ながら七代目新会長を務める石井さん。披露の場である秀郷まつりは今年も残念ながら開催されませんが、来年1月の郷土芸能フェスティバルへの出演が決定しました。練習の見学・体験も歓迎との事なので、ご興味のある方は参加してみたいはいかがでしょうか。

(市民記者 小林春美)



▲六代目会長の大島さん  
による指導の様子



▲郷土芸能フェスティバルの様子  
(平成28年度参加時)

## 閉校記念宇都宮ブリッツェン自転車安全教室

**常** 盤小学校にて7月5日(火)、宇都宮ブリッツェンによる自転車安全教室が実施されました。この催しは、同校が令和5年3月で閉校となることを受け、児童たちにふるさとの誇りを持って前に進んでほしいという先生方の思いにより実現しました。当日は宇都宮ブリッツェンから、西村大輝選手、中村魁斗選手らが講師として参加しました。校庭には、スラロームや細い一本道など、一筋縄ではいかないコースが準備され、児童たちは少し難しいコースに果敢に挑戦していました。



▲自転車安全教室の様子



「ハデカケがヤットコストコ(やっこ)終わったんナ(のは)いいが、嵐でせっかく作ったサンギッチョがオツクルケンナケリヤー(倒れなければ)いいけどなあ。イネアゲ(干した稲を納屋に取り入れること)まで天気がもてばいいんだけど」

(市民記者 森下喜一)

「稲刈りが終わったらさあ、コンダ(今度は)ハデカケ(稲掛け)でもヤンベー」  
稲を刈り取って小さく束ね、その稲束を横木に掛ける作業をハデカケといいますが、ハデカケは稲穂を日に当てて干すための作業です。

秋は農作物の取り入れ時、農家にとってはとても忙しい時期です。ところで、農作物の代表的なものといえばやはり米や麦でしょう。食べ物を中心となるもので、生活には欠くことのできないものだからです。秋は、稲や麦の刈り入れどきです。刈り取ってから食するまでには、乾燥したり脱穀したり、たいへんな手間や時間が掛かります。ところで、こうした作業に関して伝わってきた方言があります。それらの方言について述べてみましょう。

な野奔  
ばんせい

三本立ての棒をサンギッチョ(一)、  
それに渡す横木をハデンボ(一)という

